

地域に貢献する岩手大学の 産学官連携の取組について

岩手大学
研究支援・産学連携センター
センター長 水野 雅裕



岩手大学の規模（令和5年5月1日時点）

学部等	学科数	学生数		教員数
		収容定員	現員	
人文社会科学部	2課程	820名	907名	60名
教育学部 教職大学院課程	1課程 1専攻	640名 32名	693名 29名	60名 (附属学校86名)
理工学部 理工学研究科	3学科 3専攻	1,800名 54名	1,903名 52名	126名
農学部 連合農学研究科 獣医学研究科	6学科 3専攻 1専攻	990名 72名 20名	1,050名 95名 14名	87名
総合科学研究科	4専攻	588名	652名	
教育研究施設				2名
教育研究基盤施設				9名
教育研究支援施設				6名
特定事業推進室				1名
計 教職大学院課程・総合科学研究科 博士課程		4,250名 620名 146名	4,553名 681名 161名	351名 (附属学校86名)

研究支援・産学連携センター

地域協創教育センター



研究支援・産学連携センターの創設（令和2年10月）

センター創設の背景

- 東日本大震災からの復興 ハード面はほぼ完了したが…
- 地方における急速な人口減少
 - ・ 生活関連のサービスの縮小
 - ・ 公共交通機関の縮小
 - ・ 放棄された土地や家屋の増加
 - ・ 地域コミュニティの機能低下

岩手県は課題先進地



- 人口流出を防ぐ対策
 - ・ 新産業の創出
 - ・ 地域の魅力の発掘・創造
- 人口減少を前提とした地域社会の構築
 - ・ 自治体DX、産業DXの推進

地域の多様な機関の連携が求められている

研究支援・産学連携センターの創設

センター創設の目的

- 岩手大学の特色ある研究の推進・支援および学術研究の基盤強化を図ること
- 岩手大学の教育研究成果および知的資産の地域への普及・還元を通じ、**地域創生に寄与**すること

研究支援・産学連携センターの概要

特徴

- ① 研究支援から産学連携・地域創生までのワンストップ窓口
- ② 機動性と安定性の両面を取り入れた組織体制
(固定スタッフが必要な業務によっては**ユニット&チーム制**を導入)

業務

- I 研究戦略の企画立案の支援
- II 研究、**産学連携及び地域連携の支援**
- III 法令に定めのある研究活動の管理（研究倫理・生命倫理、輸出管理など）
- IV 研究用施設、設備及び分析機器の管理運用
- V 知的財産の管理及び活用
- VI 大学発ベンチャーの創出と育成
- VII 盛岡市産学官連携研究センターの管理運営
- VIII その他必要な業務

ユニット&チーム

URAユニット	研究基盤管理 機器分析ユニット	知財ユニット	復興・地域創生 ユニット	産学連携チーム
研究IR、プレアワード、 ポストアワード担当	分析機器管理・活用担当	知財管理・活用担当	三陸復興・地域創生担当	産学連携推進担当
岩手大学の強み・特色となる 学術研究や異文化融合研究等 を推進するため、科学研究費 助成事業の獲得及び産学官連 携に係る総合的な研究支援を 行います。	動物実験管理、遺伝子組換え 生物等実験管理、病原体等管 理及び安全保障輸出管理等の 研究基盤の管理、分析機器の 活用による研究支援及び分析 機器の外部利用支援等を行 います。	知的財産の管理・活用等を行 います。	地域創生モデル構築事業支援 や復興庁「心の復興事業」に よる地域コミュニティへの支 援等を行います。	民間企業や自治体等と岩手大 学を結ぶ窓口として、産学官 連携の推進、金融機関を含む 産学官民金ネットワークの構 築、学内研究シーズと地域の ニーズとのマッチングなどを 行います。

産学連携チームの活動

民間企業や自治体等と岩手大学を結ぶ窓口として、金融機関を含む産学官ネットワークの構築、**学内研究シーズと地域のニーズとのマッチング**などを行っています。
また、相互友好協力協定締結自治体との実践的な活動として、県内自治体職員を共同研究員として受け入れ、センター全体の活動と連携し、震災復興から産学官連携による様々な**地域創生の取組**を進めています。

- ✓ 組織的な産学官連携の推進
- ✓ 地域志向研究の促進
- ✓ スタートアップ創出支援



副センター長
教授 今井 潤



特任教授
石井 千明



コーディネータ
佐々木 英幸

他にURA※も活動に参画

※URA: University Research Administrator
研究支援や外部資金獲得などに特化した支援
を行うポストドクまたは事務職員

岩手大学の産学官連携推進の現地拠点

これまで、三陸沿岸地域の復興支援の取組を行うため、現地拠点として「釜石サテライト」「久慈／宮古／大船渡エクステンションセンター」を設置し、相互に連携しながら

- ✓ 被災地からの支援ニーズの収集
- ✓ 岩手大学の研究シーズの情報提供と被災地の支援ニーズのマッチング
- ✓ 沿岸自治体・学校・漁協・企業などとの連絡調整
- ✓ 各種支援活動の企画立案や復興プロジェクトの推進

などに取り組んできました。

令和4年4月以降は、沿岸の現地拠点である「釜石キャンパス」が中心となり、花巻、北上、水沢の各サテライトとも連携して取り組んでいます。



研究シーズおよび産学官連携シーズの発信

技術課題に重点を置いた「産学連携シーズ集」や、研究シーズに重点を置いた「研究シーズミニ動画」を作成し、自治体・企業へ積極的に情報発信を行っています。

産学連携シーズ集



研究シーズミニ動画



産学連携シーズ集、研究シーズ動画掲載サイト

https://www.ccrd.iwate-u.ac.jp/renkei_top/seeds/

